



特許庁長官 殿

- 特許 (1) (特許法第38条ただし書の規定による特許出願)
昭和49年1月10日
1. 発明の名称 ゴルフのティー
2. 特許請求の範囲に記載された発明の数 3
3. 発明者 特許出願人に同じ
4. 特許出願人
郵便番号 165
住所 東京都杉並区成田東5丁目16番7号
氏名 森下 勇一
5. 添付書類の目録
(1) 明細書 1通
(2) 図面 1通
49 141668

明 細 書

1. 発明の名称 ゴルフのティー
2. 特許請求の範囲
1. 逆円錐形の基部(1)の上面に3又は3以上の弾性材の細長い支杆(2)を設け、支杆(2)の上部を球(3)との接触点(6)としたゴルフのティーに於て、基部(1)の上面を凹ませ、その内側に支杆(2)を設けたゴルフのティー。
2. 逆円錐形の基部(1)の上面に1又は1ヶ所以上に設けた穴に繊維を束ねた植毛部を設け、植毛部(4)の上部を球(3)との接触点(6)としたゴルフのティーに於て、基部(1)の上面を凹ませ、その内側の穴に植毛部を設けたゴルフのティー。
3. 逆円錐形の基部(1)の上面に1又は1以上の弾性材の細長い支杆(2)を設け、支杆(2)の上に保持部(7)を設け、球(3)を保持部(7)の上部に乗せて使用するゴルフのティーに於て、基部(1)の上面を凹ませ、その内側に支杆(2)を設けたゴルフのティー。

3. 発明の詳細な説明

本発明はゴルフのティーショット時にティーグラ

① 日本国特許庁
公開特許公報

①特開昭 51-68330
④公開日 昭51.(1976)6.12
②特願昭 49-141668
②出願日 昭49.(1974)2.10
審査請求 未請求 (全4頁)

庁内整理番号

6641 25

⑤日本分類

120 G553.1

⑥Int.Cl²

A63B 57/00

(2)

ウンドに立ててその上に球を乗せて使用するティーに関するものである。

従来ゴルフのティーはティーショット時に球と共にクラブヘッドにより打たれ、飛ばされることがあった。この為クラブヘッドの運動エネルギーの一部はティーが飛ばされることに使われ、球の飛距離はそれだけ延びなかった。

本発明はこれらの点を考慮に入れ、打球に対する影響の少ないゴルフのティーの改良に関するものであり、次にその構成を実施例について図面とともに詳記する。円錐形を逆にした基部(1)の上面を円錐形に凹ませる。凹ませた基部(1)の内側の底面上又は内側の側面に3本の支杆(2)を設ける。支杆(2)はその上部にゴルフの球(3)を乗せ得る十分な強度を持たせ、しかも曲げやすい様に充分細くする。支杆(2)の材質は曲げ変形の後、力を取り去った場合には、速やかに元に戻る様に弾性材とする。

次に本発明の使用方法について述べる。ゴルフのティーショット時に、基部(1)を下にして、ティーグラウンドに鉛直に基部(1)を土中に押し込み、支

(3)

杆(2)の上に球(3)を乗せる。3本の支杆(2)の先端の接触点(6)は球(3)を支える。球(3)はクラブヘッド(4)で強打し、飛ばす。このとき支杆(2)は曲がりやすい為クラブヘッド(4)のトクがうると容易に曲がりクラブヘッド(4)の通過を、速やかに元に戻る。

ティーショット時のティーアップによる球(3)の高上げ高さは、通常、球(3)の半分から1個分程度にすることが多く、その為支杆(2)の球(3)を乗せ得る強さの制限により柔軟に曲がりやすく構成する事が難しかった。又、支杆(2)を細くすると、支杆(2)は付け根から曲がりやすく成り、その為折れる事もあった。本案はこれらの点を考慮に入れ、基部(1)の上面を円錐形に凹ませ、内側の底部に支杆(2)を設けたものである。この為、支杆(2)は従来のもより曲がりやすくてできる。又、曲がった場合は第4図に示すように、基部(1)のフランジ(5)が支杆(2)に当り、支杆(2)の付け根の部分の曲がる角度が制限される為、支杆(2)の付け根の部分の折れる事はない。

第5図は本案の他の実施例であり、支杆(2)の数

(5)

を安定に保持部(7)の上に置く事ができる。

支杆(2)の上部と球(3)とが接触する支杆(2)の上の接触点(6)は、使用状態に於て、必ず球(3)と接触するとは限らず、支杆(2)の数が多い場合は球(3)と接触しない支杆(2)もある事になる。接触しない場合は、各支杆(2)の最も球(3)に近い点を接触点(6)とする。又、接触点(6)は支杆(2)の上端とは限らず、支杆(2)の上部の側面にある事もある。使用状態に於ては、基部(1)は正確に鉛直に置かれるわけではなく、球(3)の重さも一定ではない為、接触点(6)は固定したものではない。本案では使用状態に於て、接触点(6)は球(3)を安定に置く事ができるように構成する必要がある、その条件を次に示す。接触点(6)は最低3点あれば良く、3点は同一直線上になく、しかも使用状態に於て球(3)の重心を通る鉛直線が接触点(6)の3点が作る三角形の内部を通る必要がある。接触点(6)が3点以上の場合も同様に、使用状態に於て、球(3)の重心を通る鉛直線が外側の接触点(6)が作る凸多角形の内部を通る必要がある。

を5本としたものであり、支杆(2)の上に安定に球(3)を置く事ができる。

第6、7図は本案の他の実施例であり、基部(1)の凹ませた上面の内側に設けた穴に支杆として繊維を束ねた植毛(8)を設けたものであり、植毛(8)は非常に曲がりやすい為打球に対する影響はさらに少ない。

第8、9図は本案の他の実施例であり、1本の支杆(2)の上に3本の枝状の保持部(7)を設けたものである。支杆(2)が1本である為取り扱いが簡単であり、又球(3)を安定に保持部(7)の上に置く事ができる。

第10、11図は本案の他の実施例であり、1本の支杆(2)の上にカップ状の保持部(7)を設けたものである。支杆(2)が1本である為取り扱いが簡単であり、又球(3)を安定に保持部(7)の上に置く事ができる。

第12、13図は本案の他の実施例であり、基部(1)の上部に4本の支杆(2)を設け、支杆(2)の上部にばち状の保持部(7)を設けたものである。この為球(3)

(6)

保持部(7)の形状は使用状態に於て、その上部に球(3)を安定に置く事ができるよう構成される必要があり、その条件を満たす多くの形状が考え得る。球(3)を安定に置く為の保持部(7)の条件を次に示す。球(3)と保持部(7)とが接触する保持部(7)の上の接触部は最低3点あれば良く、3点は同一直線上になく、しかも使用状態に於て球(3)の重心を通る鉛直線が接触部の3点の作る三角形の内部を通る必要がある。接触部が3点以上の場合も同様に、使用状態に於て、球(3)の重心を通る鉛直線が外側の接触部が作る凸多角形の内部を通る必要がある。球(3)と保持部(7)の接触は点である必要はなく、線でも面でも可能であり、その場合も同様に外側の接触部が作る凸多角形又は凸閉曲線が前記と同じ条件を満たせば良い。さらに第10、11図に示すように保持部(7)の上面を球(3)より大きい半径の球面状のカップとした場合には、球(3)と保持部(7)との接触部は、球(3)の重心を通る鉛直線と保持部(7)の上面との交わる一点となり、この関係は保持部(7)を少し傾けても変わらない。これは前記の条件の特別

(7)
な場合と考えられ、保持部(7)の上面に安定点ができる為である。

このように本案に於ては、ティーアップの嵩上げ高さが低い場合でも支柱(2)を十分に曲がりやすく構成することができる。又、折れやすい支柱(2)の付け根の部分の曲げ変形を基部(1)が制限する事になり、異常に折れにくい。

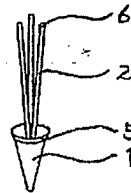
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実例の正面図、第3図は本案の使用状態の正面図、第4図は本案の使用状態の一部切欠正面図、第5、6、8、10、12図は本案の他の実施例の正面図、第2図は第1図の、第7図は第6図の、第9図は第8図の、第11図は第10図の、第13図は第12図の各実施例の縦断面図。

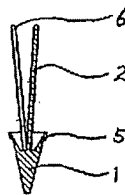
1は基部、2は支柱、3は球、4はクラブヘッド、5はフランジ、6は接触点、7は保持部、12は植毛。

特許代理人 森下勇一

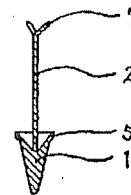
第1図



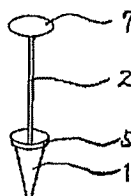
第2図



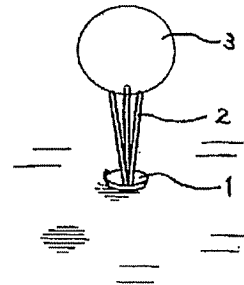
第9図



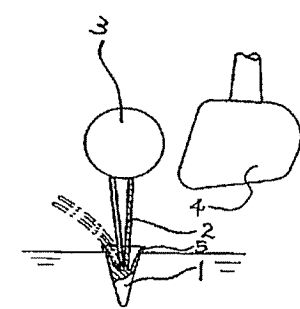
第10図



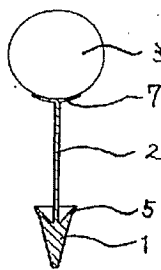
第3図



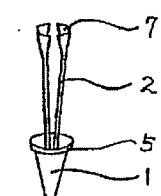
第4図



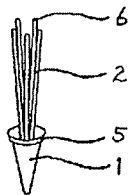
第11図



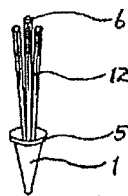
第12図



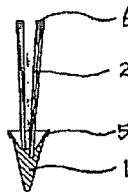
第5図



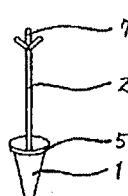
第6図



第7図



第8図



第13図

